

第4回委員会において大綱（素案）に対して頂いた意見への事務局の考え方

1. 行財政改革の背景

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
事務局による修正	<p>(変更) 3 ページ、1. (2) 最終段落中の表現について、4. (2). ①の修正（後述）との整合を図り、以下のとおり変更しました。</p> <p>【変更前】 「歳入規模に見合った財政規模への転換を図ること」</p> <p>【変更後】 「歳入規模に見合った財政運営の堅持」</p>
事務局による修正	<p>(変更) 3 ページ、1. (3)2 行目について、「本市」、「当市」が混在していたことから「本市」に統一しました。</p>

3. 行財政改革の基本的な方針

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
（公共施設マネジメントに関連して）都市機能の拡大抑制や都市インフラの不採算地域への対応といった視点が必要	<p>(文言追加) 5 ページ、「基本的方針 2 持続可能な財政基盤を確立します」【推進の視点】①中に、「集約型都市構造を目指した市街地の拡大抑制などのほか、」という文言を追加しました。これにより指摘の概念を包含するものと考えます。</p>
事務局による修正	<p>(変更) 5 ページ、「基本的方針 2 持続可能な財政基盤を確立します」【推進の視点】①について、4. (2). ①の修正（後述）との整合を図り、以下のとおり変更しました。</p> <p>【変更前】 「早期に財政収支の均衡を図るなど財政健全化に向けた取り組みを進めます。」</p> <p>【変更後】 「財政収支の均衡を堅持するなど、引き続き、財政健全化に向けた取り組みを進めます。」</p>

4. 行財政改革の基本的取組

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
事務局による修正	<p>(変更) 7 ページ、4. (1). ⑥(イ)の見出し及び、本文中の「人材育成基本方針」については、担当部との協議により「策定」ではなく「見直し」として修正します。</p>
財政健全化の項について、 ①接続語が不足している ②財政状況について、市民理解の促進という視点がない ③現在の財政構造は「歳入に見合っていない」とも読める。	<p>(変更) 8 ページ、4. (2). ①について、以下のとおり変更しました。</p> <p>【変更前】 急速に進む少子高齢化、地方交付税・国庫補助負担金の減少・縮減など（中略）、自らの財政状況を分析し、中長期的な財政収支見通しに立った抜本的な歳出削減や歳入確保策などにより、「歳入に見合った」財政構造への転換を進めます。</p> <p>【変更後】 急速に進む少子高齢化とともに、地方交付税・国庫補助負担金の減少・縮減など（中略）、自らの財政状況について、分析と市民との情報共有をさらに進め、中長期的な財政収支見通しに立った抜本的な歳出削減や歳入確保策などにより、「歳入に見合った」財政運営を堅持します。</p>

第4回委員会において大綱（素案）に対して頂いた意見への事務局の考え方

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
「歳入の確保」の項については冗長であり、分割すべき	(変更) 8ページ、4.(2).③「歳入の確保」について、冗長であり、また、税収確保についての言及である前半部分と、それ以外の新たな歳入確保についての言及である後半部分との性格が異なることから、それぞれ、(イ)(ロ)として分割しました。
「入札・契約制度の改善検討」の項について、再考が必要	(変更) 8ページ、4.(2).④(ロ)について、推敲の結果、以下の通り変更しました。 【変更前】 入札・契約制度については、競争性を維持しつつ、より高い工事品質を確保するとともに、入札参加者の資金調達の円滑化を図るため、適宜見直し等を行うこととします。 【変更後】 入札・契約制度については、透明性や競争性を維持しつつ、より高い工事品質を確保するとともに、地域経済への波及効果にも配慮しながら、一層の適正化と効率化に取り組みます。
公共施設のマネジメントには市民も参画すべきである	(追加) 8～9ページ、4.(2).⑤について、「(建築物のマネジメントについては、)地域住民などの参画のもと進めることとし、」を追加しました。

5. 行財政改革の進め方

頂いた意見の要旨	事務局の考え方
①推進計画の進捗チェック機能について更に踏み込むべき ②進捗の透明性について疑問	(変更) 9ページ、5「行財政改革の進め方」に(3)として、「 推進計画の進捗管理 」を以下のとおり新設します。また、これに伴い「公表及び情報公開」は(4)として繰り下がり、(2)の「改革の推進体制」で言及していた評価に関する事項は、(3)へと移動したうえで、内容を補強し下記のとおりとします。 (新規追加) (3) 推進計画の進捗管理 推進計画の進捗管理にあたっては、北見市の全ての事務事業を対象に、その効果や効率性等について自己評価する「事務事業評価シート」や学識者、公募委員等からなる外部委員会による客観的な評価を活用し、これら評価結果に応じた検討、改善のほか、次年度予算編成への反映などに取り組みます。
事務局による修正	(変更) 9ページ、5.(4)中、「推進計画の進捗の状況」を「推進計画の評価」に変更